

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

# 健康新聞

発行所  
発行人

新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原6-7-1

TEL:092-661-1531

https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十二年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

著書『天国の福音』より

## 結論

私は既存医学の誤謬を余すところなく説いたつもりであるが、読者は読み終つて如何なる感想が湧起したであろうか。恐らく余りにも意想外なる新説に驚嘆されたであろう。

人間が最大貴重としている生命を一日も延長し、寿命の長からん事を冀うと共に、健康の全からん事を欲する事は、あまりにも当然である。その目的を達成せんが為の医学の在り方であるに拘わらず、実はその事自体が健康を破壊し、寿命を短縮させるというのであるから、啞然たらざるを得ないと共に、私のこの発見が、全世界に対し如何に未曾有の重大問題を提示するかという事である。もし今日においてこの発見がなかったとしたら、全人類の未来は如何になりゆくであろうか、まことに慄然たらざるを得ないのである。その最悪の結果としては人類の滅亡であり、そうでないとしても、ある程度の大減少の暁発見なし得たとしても、滅亡直前における挽回は、けだし容易ならぬものがある。

以上は人口問題に關しての将来観であるが、私は他の面に向かつても検討すべき問題がある。それは戦争と飢餓である。これらの問題についても、古今東西あらゆる碩学、この時代の卓越せる政治家、識者等の頭

脳によって検討し尽くされつつも、なお未だ解決の緒にも着かないという現実、何を物語るものであろうか。それは問題の根本に触れないが為である。然るに私はこの問題についての解決方策をも発見し、あわせてここに述べんとするのである。

然らば、その解決策とは何ぞやというに、これは前人未見の説であるから、読者はそのつもりで熟読されたいのである。そもそも戦争發生の根本原因としては、国家の構成分子たる個々人の性格である。今日までの戦争原因のそのほとんどは、英雄の野望と、封建的軍国主義者等の企図による事は明白であるが、またそれらに引き入れられ、賛同し、援助するという国民にも一半の罪はあるであろう。従つてまず考えなければならぬ事は、その時代における好戦国民個々人の性格の検討である。いうまでもなく平和を欲せず、争いを好むという意欲である。

私の発見によれば、争いを好むという性格は、歸するところ不平不満と愛の欠乏からであり、その原因としては、普段における不快感である。そうして不快感なるものを分析する時、他動因と主動因とあり、他動因とは偶発するところの悪事情であるが、これは時間的に大半は解決されるものである。然るに何等悪事情なきにかかわらず、主動因である不快感は取りのけようがない事は、誰しも知るところである。しかもこの主動的不快感は、普通事情までも悪事情化する恐れがある。事実常に不平不満、後悔、愚痴等を連発する人はこの種の人で、またこの種の人は自己反省がなく、不平不満の原因を他動的に解釈し勝ちである。その現れとして人を怨み、社会を呪い、排他的觀念に陥りやすいのである。かの共産思想が、個々人の不幸の原因がある程度自己の罪にもある事を閑却し、社会事情によるとなし、それを闘争によつてのみ解決出来得るとする所以もここにあるのであると共に、資本家の横暴もまた愛の欠乏による事は勿論である。

この意味において戦争の原因が、人間個々人の不快感にありとすれば、その不快感の除去こそ問題の根本的解決であらねばならない。然るに、それは本医術によつてのみ解決なし得るのである。何となれば不快感の原因が薬毒であり、薬毒保有者は常に身体の内側の部分に浄化發生があり、そのためであるからである。然るに如何なる人といえども、不快感は何の為なるやを知らず、先天的自己の性格と信じ、ただ漫然と不愉快なる生活を営んでいるに過ぎないので、常に人を嫌忌し、怒りやすく、悪いと知りながら争わずにはおられない。不利と知りながら勤勉になり得ないという——その事がまた不平の因となるという訳である。かく觀じ来る時、戦争の原因を除去する方法としては、薬剤を人類から廃止する事と、現在個々人が保有している薬毒を除去する以外ないのである。従つて本医術の普及こそ平和確立の根本義である事を知るであろう。

そうして以上述べた以外、貧乏の問題がある。貧乏の原因が、小にしては、個人としての霊肉共に不健康であるからであり、大にしては、戦争とそうして悪政治のためである事はいうまでもない。従つて本医術によつて健康も、戦争も、貧乏も解決なし得るとしたら、光明輝く地上天国出現といえども、あえて夢想でない事を知るであろう。

本書に対し「天国の福音」という題名を付した所以もこのところにあるのである。

## 浄霊体験記

2ページ  
3ページ

- 苦しみから解放され健康と幸せの日々
- たった一回の浄霊で体が楽になった...
- 辛い鼻炎が治り腫れ物もきれいに...

## 初日の出

(宮崎県高千穂)



浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

## 頭痛・生理痛

苦しみから解放され  
健康と幸せの日々

小倉支部  
松本文子 (53)

私は小さい頃から身体が弱く、すつきりした日は一日もありませんでした。成長するにつれ、どんどん酷くなり、高校三年生の頃には学校も休みがちでした。症状としては疲れやすく、不眠症、低血圧、頭痛、肩こり、腹痛、生理不順、冷え性等、挙げればきりがありません。三十七度二分くらいの微熱が続く、動悸がして息苦しい時もありました。特に頭痛がない日は一日もなく、朝起きると身体が重くて本当に辛い毎日でした。

病院もあちらこちらと通い、いろいろな薬を服用したり、検査をしたりしましたが、原因は分かりませんでした。

た。お医者さんからは「精神的なものでしょう」と言われ、「こんなにも苦しいのに」と腹立たしく情けない思いでした。「私は一生この頭痛と付き合っていくのか」と諦めて、生きていくことに対しても投げやりな生活でした。

高校はなんとか卒業し、就職して仕事をしていたのですが、依然として症状は変わりませんでした。高校を卒業してから顔のニキビもひどくなって皮膚科にも通いました。

就職した後、頭痛は少し軽い時があるものの、相変わらず生理痛が酷く、寝たまま起き上がりがたくなかったという毎日何とかが過ぎていました。精神的にもあまり健康でなかったと思います。

平成五年五月頃、二十二歳の時、月に一度は体調が悪く会社を休んだり、エアコンの風がつかなくて職場に迷惑をかけたりにしていましたので、仕事を辞めようと決め、上司に相談しました。すると新健康協会の会員であった上司(深牧公和さん)から「一度浄霊というものを体験してみないかね」と言われ、その場で浄霊を受けました。初めて浄霊を受けましたが、後頭部から背面にかけて何か感じるものがありました。また今まで病院で検査をしても原因が分からず「精神的なもの」、なまけ病」と言われたこともあったので、浄霊を受けることで何か安心したような気持ちになりました。その時のことは今でも忘れられません。

上司から「浄霊を続けてみたら」と声をかけていただきましたので、仕事の後、週に一度の割合で浄霊を受けるようになりました。

すると、数カ月後には薬を服用しても良くなかった頭痛が良くなりました。また、普段は仕事で疲れていても、浄霊を受けた日はとても明るく元

気な状態でした。母も私を一目見ただけで「今日は浄霊を受けてきたのだな」と分かる程でした。

## 全てが明るい方向に…

平成六年五月頃、下関に新しく出張所が開設されました。今まで私のことを心配してくれていた祖母と母は、私が元気になったことのお礼を言うため、一緒に出張所へ行きました。お礼を言ったら帰るつもりでしたが、当時、祖母は心筋梗塞で十年間薬を服用し、いつ発作が起こるか分からないという状態だったので、出張所で浄霊を受けることにしました。

浄霊中、入会したら自分でも浄霊が出来るということを知りました。また、祖母は帰宅途中にある長い階段を普段は何度も休んで登っていたのですが、出張所で浄霊を受けた日は一度も休まず楽に登れたのです。私たちは浄霊の素晴らしさに感動し、私が二十二歳だった平成六年五月十四日に母と私が入会し、その一週間後に祖母が入会しました。

自分自身、生活することに自信がなく、結婚や出産なんてと諦めていましたが、入会後からは全てが明るい方向に進みました。ある日気がつくくと頭痛がなくなっていました。

それからは結婚することも出来ましたが、生理不順でしたので、子どもは授けられないかもと思っていました。三人の子どもに恵まれました。

全ては明主様のおかげです。一人でも多くの方が浄霊を受けられて幸せになってほしいと願わずにはおられません。こんなに元気になっていただき、ありがとうございます。何かのお役に立ちたいと考えています。心から感謝申し上げます。

(山口県下関市)

台湾

《自律神経失調症》

たった一回の浄霊で  
体が楽になった…



台北支部  
文雅伶 (48)

私は二〇〇九年、三十二歳の頃から不安やパニック、不眠、頭痛などの症状があり、病院で検査をすると「自律神経失調症」とのこと、抗不安、抗パニックの薬を飲み始めました。これらの薬には安眠の効果がありますので、薬を飲み始めてから睡眠の状態も良くなりました。薬を一年間ぐらい飲んでから医者と相談し、一度薬をやめました。

それから十年後の二〇一九年六月、四十二歳の頃からまた不安、不眠、食欲不振などの症状が出てきました。仕事にも影響していたので、また薬を飲み始めました。私は薬なしではダメだ…という気持ちが大きくなり、「もう薬を止められない…」と思いました。それから三年後の二〇二二年、四十五歳の時に、右の腹部と胃、背中が張って痛み、体をまっすぐにすると

とが出来ないほどでした。とても辛くて、ご飯を食べるだけでも恐怖感が湧いて来ました。病院で検査をすると「胆のう結石」で、「手術で胆のうを取るのが唯一の根本的な解決法…」と医者が言いました。

そんな時、友人の楊欣霓さん(台北支部会員)が「浄霊を試してから手術をするか決めたら…」とアドバイスをしてくれたので、私も浄霊を試してみても悪くはないか…と思って、その年の七月から台北支部で浄霊を受けるようになりました。

初めて浄霊を受けたのですが、この時「背中が少し暖かいな…」という感じがしていました。すると、一回目の浄霊が終わった時、辛いところが楽になっていました。私はびっくりしました。たった一回の浄霊なのに、どうしてこんなに楽になったの…?こんなに楽になったのは初めてでも驚きました。浄霊が、どんな力かも知らなかったのですが、体が楽になりましたので、その時から週末の休みは台北支部へ浄霊を受けに行くようになりました。

心配や不安が消えた…

二〇二三年の二月初めの頃、不思議なことでも自分でもよく分からないのですが、「もう薬を飲みたいくない…」という気持ちが湧いて来て、さらに「もう薬に支配されたくない…」という思いが強くなりました。そのため、約三年間欠かさず服用していた抗不安、抗パニックの薬をやめることにしました。一日目、二日目は本当に辛かったです。全く眠れませんでした。仕事もしていましたが、頭はぼんやりしていました。それでも、また薬を飲むのは嫌だったので、仕事は我慢して、夕

方には浄霊を受けに支部へ行きました。すると、眠れる時間が二時間、三時間…と、少しずつ増えて、一週間経つと自然に眠れるようになりました。眠っている時間はそんなに長くなかったのですが、とても有難いと思いました。そして、自分でも浄霊が出来るようになりたい…と思い、二〇二三年二月二十七日に入会しました。

入会してからは自分でもよく浄霊をして、休みの日は支部へ行き浄霊を受けたり、他の方を浄霊したりしています。

こうした体のことと合わせて、人生の過程を通して、様々な明主様の御教えを実感することが出来ました。そのおかげで、心配や不安などの気持ちも段々と消えました。

明主様、誠に有難うございました。  
(台湾台北市)

謹賀新年



ネパール

辛い鼻炎が治り  
腫れ物もきれいに…



ピラットナガル出張所  
ラダ・タバ (55)

二〇〇一年、私は三十二歳の時、鼻炎で苦しんでいました。呼吸をするのが苦しく、何か強い臭いがあると、クシャミが二十回以上続き、ヨダレや鼻汁、涙が止まらなくなりました。多くの医者に診てもらい、インドからアレギーのための注射薬を毎月送ってもらいました。

そんな時、新健康協会の会員さんに偶然出会いました。彼女は、私が鼻炎で苦しんでいることを知り、私に新健康協会のことや浄霊のことなど色々教えてくれました。

私はすぐに出張所へ行き浄霊を受けるようになりました。他に治す方法も見つからないので、その時から毎日出張所へ行き、浄霊を受けるようになりました。すると、いつの間にか鼻づまりやクシャミが続いていたのが楽になっていました。本当に嬉しかったです。

また、その後、右足にたくさんの腫れ物が出来、見ていられないほどの状態になりました。私は、家から十キロ程離れた所にある会社で働いていましたので、毎日バスで通っていました。バスに乗ると多くの人が私の足を見て驚き、足を切断しなければいけない…という人もいました。会社の同僚には、癌になっている…という人もいましたが、私の明主様への信仰は変わりませんでした。

足の腫れ物が出来てから、私は毎日二回ずつ浄霊を受けました。それから約六カ月後、私の足に出来た全ての腫れ物は治り、すっかりきれいになりました。それによって、私の明主様への信仰はますます厚くなりました。そして二〇〇八年十月、三十九歳の時、ダラン支部で入会しました。

現在、私はとても幸せです。おかげで、すべて順調です。言葉では言い表せないほど感謝しています。  
(ネパール・ピラットナガル)

浄 霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

# 自然農法

## 自然農法体験談



荒尾支部  
柴尾善博 (76)

私が自然農法で育てているお米は、私の「恋人」です。いつも様子が気になって仕方がありません。今日はどんな表情を見せてくれるのか、どんなことをしたら喜んでくれるのか、そればかりが気になります。そして、その要望に応じてあげると、お米はもつと喜んでくれます。それが本当に嬉しく、私が自然農法を実行する上での生き甲斐となっております。

### 自然農法しかない！

私が自然農法を知ったのは、昭和五十七年九月、私が三十三歳の時です。当時、妻の体の状態が良くなかったので新健康協会の支部に行きました。すると、支部の玄関に稲穂が飾ってあったので不思議に思い尋ねますと、無肥料・無農薬の自然農法を実行されている方がいると聞きました。

私の家は代々農家なのですが、私が十代の頃、農薬散布をして農薬障害になったことがありました。私は人体に影響を及ぼす農薬を使うことや、その農作物を食することが間違っているのではなにか、と思ひ、農家を継いだ時から化学肥料や農薬についての研究をしていました。

そんな時、自然農法のことを聞いた私は、化学肥料や農薬が人体に影響を与えること、大自然の恩恵である太陽、水、土に感謝し農作物を育てることが、尊い人間の生命を支えることになる、ということを知り、今まで疑問だったことが解決しました。私は「自然農法しかない！」と思ひ、す

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てることで、自然力を生かす農法です。

ぐに自然農法を実行しました。

### 国の将来を思っ努力したい！

自然農法を始めてすぐは草取りが大変でした。今までに入れていた化学肥料や農薬が肥毒として蓄積されていることもあり、虫や病気で収穫が上がらないこともありました。それでも私は「不純物のない、生命力溢れた生きたお米を作りたい！」と思ひ、さらに土の清浄化、種の清浄化に努めました。

その中で、化学物質過敏症の人も、そうでもない人も安心して食べられるお米はあるのか、しかも九州地方で栽培可能な品種はあるのか、という模索が始まりました。

そこでまず注目したのは、かつての人気を博しながら、今は「幻の米」となった「農林四十八号」という品種でした。この米は雑草に強く、除草剤や化学肥料を使わなくても栽培が可能であり、標高四百メートルくらいが栽培に最適と知り、阿蘇にある私の田んぼで自然農法が出来る！と思ひました。

最初は実験的に一反ほど作ってみるところ、思ったよりも良く出来ましたので、少しずつ耕作面積を増やしました。すると年々収量も増えていきました。

自然農法を始めて、今年で四十二年になります。現在はお米の他、小麦、そば、野菜等を育てています。これからの食の安全、そして未来に至るまでの繁栄、大きくは国の将来を思う時、この自然の法則に適った自然農法が一般的で当たり前の農業として認められ、定着しなければならぬと考えます。その実行のため、現在様々な取り組みを行い、努力をしています。

私はこれからも自然農法を実行していきます、多くの方が元気で幸せになるよう努めていきます。  
(熊本県玉名市)

## 美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにする事ができます。

### 横山大観 《霊峰不二》

広がる雲海から立ち上がる富士の山。冠雪の山の頂が空の深い青色に映え、一際輝いています。雲海に射す金の光も神々しく、扇面に描かれた小作品ですが、その独特の形状によって山の高さと感じられるようです。本作は明治、大正、昭和にわたって活躍した日本画の巨匠、横山大観の《霊峰不二》です。

大観は一八六八(慶応四/明治元)年、水戸藩士の長男として生まれ、東京府立中学校、私立東京英語学校を経て、開校したばかりの東京美術学校に入学。現在の東京藝術大学の前身であり初めて日本にできた官立の美術学校の第一期生となりました。受験を決心するまで取り立てて絵を学んでいたわけではない上、鉛筆画で受けるつもりでの試験を、人数が多いからと当日急に毛筆画に変更して合格したというエピソードにも、大胆に行動できる人となりが見られます。

美校にて、大観は美術史家・思想家である岡倉天心の理想を実現しようとする、卒業後も行動をともにしました。一八九八(明治三十一)年には日本美術院の創立に加わり、菱田春草らと新しい日本画の実践を目指し、輪郭線によらない大胆な無線彩色描法で空気を表現することを試みましたが、朦朧派と揶揄されるようになり、しばらく苦しい時代を送ります。苦境のなかでも活動を続け、一九〇七(明治四十)年には第一回文展に審査員として出品、天心没後日本美術院を再興し、美術界での存在感を示しました。

大観は生涯にわたって富士山を描き続けたことでも知られています。一九六七(昭和四十二)年の記念切手に《霊峰飛鶴》が採用されたことによ

て、大衆にも「富士の画家」としてのイメージが定着することになりました。実際、九十一歳で亡くなるまで、花鳥山水を含めてたくさんの作品を残した大観ですが、絶筆となったのは富士山でした。富士山自体、平安時代の古くから描かれてきた画題で、各時代を反映した姿を見せてきました。大観にとつての花鳥画は、形象の美しさではなく、四季の自然に触れることを喜びとする私たちの心を象徴するものでした。大観の富士もまた、なにより民衆のその心情を描くことができたのでしよう。だからこそ多くの人々の共感を得、支持を集めたのだと思ひます。

解説 松田愛子



### 晴明会館 「山の景」展

期間：令和6年10月1日(火)〜令和7年5月13日(火)

※晴明会館お問い合わせ ☎092-661-1535